

1、平成 25 年度植生回復作業のまとめ

平成 25 年度は G から L 地点まで作業を行う予定でしたが、すべての作業を完了することはできませんでした。当初計画した作業量が多かったことと、平成 24 年度に伐った木や草の処理を行ったことが主な原因です。葦毛湿原は県指定の天然記念物で植生回復作業を行うにあたっては、現状変等許可申請を行って許可された期間と方法で作業を行う必要があります。当初の計画量が多かったのは、ボランティアの方がどの程度参加していただけるか、作業がどの程度進むかは、実際に行ってみないとわからなかったからです。そこで、計画立案段階では、かなり作業量を多く見積もっています。平成 25 年度に行うことができた作業の概要は以下の通りです（各地点の位置は葦毛通信 No.5 参照）。

なお、平成 25 年度の植生回復作業は、平成 25 年 11 月 5 日（火）から平成 26 年 3 月 31 日（月）まで、延べ 25 日間（作業は午前中のみ）、478 名の参加がありました。

F 地点(旧水田)

作業面積：約 2 0 0 m²

作業内容：除草と一部の表土剥ぎを行いました。平成 24 年度に表土を剥いだ所が冠水していたので、冠水しない湿った土の部分を作るために一部の表土を浅く剥ぎ取りました。また、冠水した部分にトタン板で区切った播き出し実験区を 3 か所に設置し、左から B 地点の礫層、I 地点のミズゴケの下の土、I 地点のヌマガヤの下の土の異なった条件の土を入れました。

課題：播き出し実験区の水量調整のために、旧水田の一部に石を積んで水位を一定にしましたが、わずかな違いで冠水したり、乾燥したりするので常時微調整が必要になります。



F 地点播き出し実験区（北から）

G 地点

作業面積：約 1, 3 0 0 m²

作業内容：南側の木の伐採、除草を行いました。木道沿いの島状部も木の伐採、コシダの等の除草を行いました。沢沿いの湿地中心部にあるヌマガヤは根元を 5 cm 程度残して刈り取り、ヒメヒカゲに配慮しました。B 地区に接



G 地点（北から）

した湿地部分は昨年度表土を剥いだ所の続きを除去し、一部で湧水点からの水の流れを確保しました。また、50cm四方の試掘穴1か所を掘って湧水の状況を確認しています。

課題：一の沢と呼ばれる水の流れがあったところは、大部分がミズゴケで埋まって、水が流れなくなっていることが分かりました。今後はどの時点の、どのような状態の湿地に戻すかを検討し、ミズゴケと表土の除去範囲と深さを決める必要があります。

H地点

作業面積：約300㎡

作業内容：B地点付近のイヌツゲやネザサ等を除去し、木道近くのみズゴケを一部除去しました。みズゴケの下からは大量の水が湧き出し、I地点へ流れ込むようになりました。また、黒土が30cm程度たまってぬかるんで足を取られるところもありました。ここでは、みズゴケだけを除去し、その下の土は剥いていません。みズゴケを取っただけで大量の水が湧き出したので、この状態で経過を観察することにしました。



H地点（北東から）

課題：みズゴケを除去したところと除去しなかった所の違いをモニタリングし、影響を確認した上で、みズゴケ除去の範囲を検討する必要があります。G地点西側の上流部も森林化して水の流れが見えなくなっていると予想できる部分があり、湿地に復元できそうなところは、早急に木の伐採と除草等を行って確認する必要があります。

I地点

作業面積：約300㎡

作業内容：木道沿いの木の伐採、除草、みズゴケの除去を行いました。みズゴケの下は黒土があり、一部では厚く堆積しているところも見られました。H地点から水が流れ込んで、水の流れが復活し、木道沿いにかんりの水量になっています。南東隅は島状になっていた所を除草して一部の表土を剥ぎました。K地点から流れてくる水が、引き続き流れるように表土を剥ぎました。除草した部分と比較して、埋土種子から発芽する植物種が異なると予想されるので、モニタリングによりどの程度表土を剥げば良いのかという情報が得られると予想しています。



I地点（南から）

課題：大きな島状部の中心部分は作業を行えていないので、今回の作業結果に基づいて、今後行う木の伐採と除草、みズゴケの除去範囲を検討する必要があります。みズゴケを除去したところのモニタリングを続け、影響を確認した上で、他の部分の除去範囲を検討します。みズゴケに依存している植物や昆虫等がいるという指摘があったので、みズゴケを残す範囲を確認する必要があります。

J地点

作業面積：約100㎡

作業内容：南側のカザグルマが出ていた所の木の伐採と除草を行い、カザグルマの生育条件を整えました。かつてカガシラが出ていた所の表土を2か所除去しました。地上絶滅したカガシラの復活を目指しています。

課題：以前は木道沿いに小さな池があり、ヒメミミカキグサが自生していたそうなので、今後どこまで表土を剥ぐのかを検討する必要があります。今回作業できたのはごく一部なので、中央から北側については木を伐って日照を確保する必要があります。



J地点（北西から）

K地点

作業面積：約250㎡

作業内容：島状部の木を切り除草しました。西側にある大きな島状部の中央部の表土を除去し（右写真）、東側の小さな島状部も木を伐って一部の表土を剥ぎました。東側のネザサ群落の所を幅2m、長さ5mで表土を剥いで、周囲と比較するための調査区を造りました。

課題：島状部を溝状に剥いだ表土は両側に積み上げていますが、意図的に形を整えずに置いています。高い所や低い所、多少水がたまる場所等の小さな環境変化をつけるためです。川の堤防のように同じ幅と高さで積み上げると見た目は綺麗ですが、すべて同じような環境になってしまいます。多様な生物には多様な環境が必要だということなので、どのような影響が出るかをモニタリングします。

試験的に表土を剥いだところも両側と比較して、表土を剥ぐ範囲と方法を確定する必要があります。礫が出ていたところでは、まだ植物の発芽は見られませんが、剥いだ土が取りきれず土が残っているところからはハルリンドウが開花しました。土の中には埋土種子があるので、埋土種子からの発芽を確認するためには、ネザサやコシダの根だけを除去して、埋土種子が含まれている土を現地に残す実験区も必要だと思います。



K地点島状部（北から）表土を除去した部分の中央に水の流れが復活しました

2、2014モニタリング報告-1

現在作業地点を中心としてモニタリングを行っています。各地点の状況はこれから変化が見られると思いますので、まず春の代表的な花について報告します。

ハルリンドウ

写真に写っている部分だけで 120 輪ほど咲いています。多いところでは一か所で 500 近く咲いている所もありました。除草して明るくなったことにより増えたものと思われます。今年は大変多く、少なく見ても 2,000 以上は咲いていると思います。



ハルリンドウ（遠景）

ミカワバイケイソウ

昨年は 150 株ほど発芽しましたが、花は咲きませんでした。他の地点でもほとんど花をつけず、ハズレの年のようでした。今年は数多くの花が咲きました。指定地内だけでも 50 輪程度が咲き、木を伐って明るくなった I 地点でも 3 輪が開花しました。日照が確保されたので、各地点の株はこれから順調に大きくなっていくと予想しています。



ミカワバイケイソウ（遠景）

ヤチカワズスゲ

今年は各地点でヤチカワズスゲが増えています。右の写真（D・E地点）の礫の間から発芽している植物の半分ほどがヤチカワズスゲです。来年はヤチカワズスゲを食草にしている蝶のヒメヒカゲ（愛知県絶滅危惧 I A 類、愛知県指定希少野生動植物種）が増えてくれることを期待しています。



ヤチカワズスゲの花



ヤチカワズスゲ（D・E地点遠景）